

令和四年度 奈良県教育長賞

どうして税を納めるのか。

奈良県立二階堂高等学校 一年 仲西 弓來

私は、買い物レシートを見て目に入った消費税について考えた。国民が納めている税の中でも有名で数多くの人知っている消費税。消費税ができたのは千九百八十九年。消費税ができた理由には、物品税という税が関係していた。物品税は、消費税ができる前にあった税であり、毛皮製品やゴルフ用品、水上スキーなどにかかれていた。しかし、毛織物や絹織物、テニス用品、スキーには物品税はかけられていなかった。物品税は、贅沢品につけられている税金だったが、国民の生活水準が上がってきたため贅沢品に手が届く人たちが増えてしまい、何を基準に贅沢であるか選別が難しくなることがあった。そこで消費税を導入すると全ての商品に税金がかかり問題を解決することができる。消費税は物品税の問題を解決するためにできたのだ。

私たち国民は消費税以外にもたくさんの税を納めている。では、納めなくなると日本はどうなってしまうのだろうか。

毎日人や車などが行き来したり、雨や風によって傷んでしまった道路や橋を修理するためのお金がなくなってしまい、壊れたまま放置されて通れなくなってしまふ。他にも犯罪を取り締まる警察官がいなくなり、何かトラブルに巻き込まれても費用を気にせず相談できたり、捜査や逮捕してもらえなくなってしまう。学校の建設や義務教育中の教科書の無料配布ができなくなり、良い環境で勉強ができずに子供たちは育ってしまう。このように税金を納めなければ、日本は壊れてしまふ。

最近、「消費税なんていらない」とか「国民が払った税で生活している人たちがうらやましい」とか「国民が払った税金で暮らしているのだからしっかり働けよ」など、きつく言っている人が多い。けど私たちが納めた税は、暮らしやすい、すごしやすい便利な社会に変わっている。それに道路や橋が壊れないように毎日点検をしてくれている。消防士の方は火事が起きたときや災害が起きたとき人を助けるために自ら火の中に入り救助をしてくれたり、警察の方は事件があるとすぐにかかけつけてくれたり、パトロールをし日頃から安全かどうか見ている。救急の方は電話してすぐにかかけつけ病院に運んでくれる。実際に、私の姉が体調不良になり、救急車を呼ぶほどになってしまったとき、すぐに救急隊員の人に来ていただいた。姉を助けてくれたとき、本当にうれしくて、安心したときには、涙が出ていた。あたり前かもしれないが私たち国民のためにお金を気にせず救助を求めたり、安全に暮らせているのは、私たちが税を払っているからでもあり、町の安全を見守ってくれているからでもある。税金はみんな平等に納めている。納めてない人はいない。人は一人では生きていけない。みんな協力し、支え合っているから今の日本がある。だから私は、安全に暮らせていることに感謝し、これからも生活していきたい。